

第1学年A組 国語科学習指導案

令和3年9月17日

授業者 藤原 一 恵

場 所 多目的室

1 単元名

聞き上手になろう～もっと知りたいから、話してもらいたい～

2 はじめに

(1) 教科としての課題

本単元は、学習指導要領A「話すこと・聞くこと」において以下に相当する。

A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身につけることができるよう指導する。
- ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
 - イ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。
 - ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫すること。
 - エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。
 - オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめること。

国語の学習は、生きていくために不可欠である。「こうありたい、こうなりたい」といった、自分が思い描く幸せな人生を送るためには、自分で考えて判断する力と、言葉を正確に受け止め発信する力を備える必要があるからである。

また、都市化、国際化が進み、見知らぬ人や外国人との意思疎通、少子高齢化により異なる世代との意思疎通、日々進化していく情報機器を介しての間接的な意思疎通などにおいて、多様な円滑なコミュニケーションを実現するためには、これまで以上の国語力が求められるといわれている。

生徒たちもこれからの時代を担って生きていく世代として、今まで以上のコミュニケーション力を求められている。しかし、自粛生活が続く中、生徒達は経験を重ねる数多くのチャンスを失ってきた。授業や日々の生活の中で、「人との関わり方」が分からない子ども達が増えていると感じ、そのことを危惧している。授業の中で、関わり方を学ぶことにも繋がる言語活動を、より多く実践していく必要を感じている。

(2) 生徒の実態と単元設定

本年度担当する生徒は、コロナ禍の生活を迎えたと同時に、様々な行事が中止や縮小されることを経験してきている。入学後も例年行っていた宿泊研修は遠足に変更となり、新しい環境で仲間と深く関わる経験ができないまま過ごしている。その影響があるのか、日常生活の様々な場面でうまくコミュニケーションがとれない、固定された友達とのみの関わりしか持っていない生徒が多いという実態がある。

国語の授業においても、話し合いが形式的な意見発表にとどまってしまい、それらの意見を吟味したり、一つを選択したりする話し合いまではできなかった。この現状では、課題や作品について自分なりの考えを伝え合い、多様に多角的に考える学びができないのではないかと考えた。中学3年間の学習に意欲的に取り組めるよう、自分の考えを自由に発言してもよいのだと思える環境をつくり、今後の学習をより深いものにしていきたい。

では、なぜ「聞き方」なのかについて。今までの「話す・聞く」の学習では「考えていることを言葉をいかに工夫して伝えるか」ということに特化してきた。「話せる」のは、「自分の話を聞いて受け止めてくれる相手」がいてこそであるのに、聞く態度(相槌・うなずき・笑顔)の学習にとどまっていた。改めて、「上手な聞き方ができれば、自然に話ができるのではないか」と考え、本単元を設定した。

授業においては、「聞き上手」の方法を物語の登場人物や対談形式のテレビ番組から学ばせた。さらに「相手の話を引き出す質問」「相手の話を受け止めること」を意識するために、インタビューを録画して客観的に振り返り、さらにその振り返りを活かして2回目に挑戦することで、生徒が進んで「聞き上手」を目指したやりくりを行うよう計画した。

インタビュー活動だけではなく、録画映像を見て一緒に振り返ることを通して、生徒が積極的に語り合えたり、互いのことを知って自由に発言したりできる関係に近づけることを期待している。

※「相手の話を引き出す質問」について、生徒の授業中の発言で「話を広げる質問」と挙がったため、以降は「話を広げる質問」と表す。

3 単元目標～学習活動中の「やりくり」～

- 相手の話を受け止め、共感する聞き方ができる。
- 自分や友達インタビューを見て、話が広がる質問をすることができる。
- インタビューや振り返りの活動から、互いのことを知り認め合う関係を築くことができる。

4 学習計画(全6時間)

第1次 聞き上手とは

(1) 物語から学ぶ

～「西の魔女が死んだ」梨木香歩～

(2) 聞き上手さんに学ぶ

タモリさん：テレフォンショッキング

マツコ・デラックスさん：マツコの知らない世界

第2次 聞き上手になろう

インタビューをして、そのやりとりを振り返ろう (本時)

第3次 聞き上手さんコンテスト

学んだことを実践(聞き上手の技を活かして)

5 本時の学習について

(1) 本時目標：聞き上手の方法を実践したインタビューができる。

話を広げる質問を理解し、実践することができる。

(2) 期待される生徒の様相

A インタビューを行い、相手の話を受け止めて話が広がる質問をすることができた。

B インタビューを行い、相手の話を受けとめて話が広がる質問ができていたのか、その成果や課題に気づき、改善案をもつことができる。

C インタビューを行い、相手の話を受け止めて話が広がる質問ができていたのか、その成果や課題について認識することができる。

(3) 準備物 ワークシート・生徒用 i P a d (各グループに1台)

(4) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個またはグループへの支援)

学習活動	教師の支援・意図
1 「聞き上手の技」を確認	○物語の人物や、映像から気付いたことを全体で確認し、インタビュー実践への意欲付けをする。
2 「聞き上手の技」を実践 ・「今までで一番うれしかったこと」というテーマでインタビューをする	○「聞き上手の技」を意識しながら実践する。 ・インタビューの様子は録画する。 ◆録音・録画ができるよう、場所移動を促す。
3 録画映像を見て振り返る	○話し手も聞き手も客観的に評価する。 ◆具体的なやりとりを取り上げて、うまくいったり、いかなかったりした原因を考えさせる。
○「話が広がる質問」って、どんな質問のことだろう？	
4 「話が広がる質問」を考える	◇教師が「話が広がる質問」の提示し、どんな質問がよいのか、具体例で考える。 ◆「話が広がる質問」ができていたか、どんな質問がよかったのかを考えさせる。
5 次時の予告 本時の振り返りを活かして実践	・初回の反省点を活かして「話が広がる質問」の実践をする